

(8) 職員・関係者事業評価（自由記述）

○ 昨年と比べてよくなったと思う点（記入）

希望の家職員

- 定期的に事例検討が開催され、情報共有が出来た。
- 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる。
- 希望の家の理念を職員全体で確認する機会が出来た。読み合わせの段階だが、今後も続け、理解を深めていきたい。
- 個別対応の活動が出来た。
- 生活介護事業所として、利用者の生活力の維持・向上に支援の重点を置き始めている点。
- 作業や活動は色々工夫が見られ、充実してきたと思う。
- 事例検討会を設定し、利用者一人一人に普段見落とされがちな視点と気づきが出来るようになった。
- 個々の利用者の理解を深め、情報共有の場を定期的に持つことによってスキルアップに繋がっている。
- 個別支援計画に基づいた個別の支援をすることで、利用者一人一人に丁寧に向き合うようになってきている。生活全体を捉えた支援へと変化しつつある。
- 掲示物が分かりやすくなった。
- 個々のニーズに応じたプログラムを提供するよう努めている。
- 研修への積極的な参加。

昨年度調査の主な意見

- 活動記録の作成管理が徹底された。
- 書類等の管理方法が徹底した
- 職務記録の作成回覧がちゃんとされるようになったこと。
- A班の環境が整備された
- 記録が沢山文書として残る用になり、ファイルに保管・整理されるようになった。
- 希望の家の家族支援の増加
- 利用者記録が増えた。
- 開所日が増えた。
- 内部研修の内容がこれまでと変わったこと。
- カテゴリ4……利用者のニーズに対応できるように、グループを細分化して体制を整えることができる点
- 利用者がノーと言える機会を設けている点
- 生活介護施設となったことで、以前よりも個別支援の在り方が明確化され、職員の意識も変わり、一人一人へのサービスも向上したと思う。
- 体系移行に伴い、生活介護施設サービスに対する職員の意識、知識が徐々に深まり始めている点。

社協事務局・市障害福祉課・ちょうふだぞう職員・第三者委員

- 毎年感じていることですが、利用者の皆さんへの職員が目線がやさしいです。単なる優しさではなく、なぜこうなのだろうか、その行為の、その表情の、そのはみ出しの、そのはしゃぎの…「その」の中身について会話があること、会話を通して職員の相互理解ができている事は希望の家のスタイルと感じています。

昨年度調査の主な意見

- 昨年同様、利用者一人一人に応じた支援を行い、サービス内容を検討されていると思います。
- 細部については私自身が理解不十分なところがあると思いますが、原則性方向性のところで、また、一人ひとりの持ち味のところで、よい味を感じるところが多いです。評価項目の内容は意味ある目標です。その努力のプロセスに高い評価をしております。
- 利用者一人ひとりに応じた支援を行い、サービスの内容を検討されていると思います。

○ よいと思う点、特に改善したいと思う点を、それぞれ3つ以内で自由に記入

特に良いと思う点	特に改善したいと思う点
<p>希望の家職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ●事例検討会の実施。 ●研修後の復命書の作成が義務付けられていること。(改めて考える事が出来たり、他者の考えを知ることが出来て良い。) ●明るい雰囲気、職員同士の人間関係が良い。 ●利用者と職員とのコミュニケーションが活発・豊富。 ●個別支援計画に基づいて、利用者の望む自立した生活を送れるように支援を行なっている。 ●日常生活上の支援や生活する力の維持・向上のための支援を行なっている。 ●毎日のミーティングで、情報の共有。支援する上での相談などが出来る環境にある。 ●長く関わってくださっている講師の先生や、嘱託医の先生がいて、相談できる環境にあること。 ●利用者の視点に立った支援・サービス提供に努めている点。 ●リーダー層の人が、リーダーシップを発揮している。 ●職員同士が意見を出しやすい雰囲気がある事で、利用者の理解を深める事が出来る。 ●関係機関との役割を明確にすることを意識している。 ●プログラムが充実している。 ●利用者主体として考え、運営している点。 ●利用者支援を工夫している。 ●外部講師や協力者を活用している。 ●製品販売活動が充実している。 	<p>希望の家職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ●もう一方の施設の情報(利用者の近況など)がなかなか流れてこない。 ●意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる。(3-1-1) ●職員の質の向上に取り組んでいる。(5-1-2) ●福利厚生制度の充実に取り組んでいる。(5-2-2) ●ケースファイルが見つらい(支援計画の中にフェイスシートやアセスメントシートが混在している。) ●アセスメント。 ●研修。 ●ケース会議の段取り。 ●利用者としてしっかり向き合えるような職員のモチベーションづくり。 ●場面に応じた各職員の主体的な判断と行動。 ●健康管理については、家庭での生活が大きく影響しているため、家庭との連絡を密にしなければならない。 ●環境整備(整理整頓、清潔保持等) ●記録や情報が整理されていない。 ●工賃の仕組みが分かりづらい。 ●室内の温度、湿度などの環境。 ●床や棚の整理、食器の衛生。 ●記録の共有、活用。 ●車両事故を少なくする。 ●情報共有の充実。 ●個別の計画的人材育成。

昨年度調査 希望の家職員の主な意見

- 利用者の自主性の尊重、プライバシー保護の意識が高い。
- 職員間の情報共有に努めている点。
- 職員のチームワーク。
- 利用者への対応。
- 日常活動メニューの向上。
- 利用者や保護者のニーズに最大限応じるように努めていること。
- 関係機関との連携
- 利用者の意向を重視している点
- 職員体制が手厚く、急な事態の対応、多様な活動が行いやすい
- 利用者を敬称を付けて呼んでいること
- 利用者支援の個別性
- 5-2-1 内部研修を取り入れたり、外部研修の参加の機会を設けている。
- 6-5-2 利用者の意志を尊重し人権を守っている
- 作業やプログラムが充実している。
- 利用者を中心に優先して行動（業務）をしていること
- 毎日のミーティングの報告で利用者情報を共有できている。
- 6-2-1（事前説明・同意）
- 一人ひとりの利用者きちんと寄り添っている。

社協事務局・市障害福祉課・ちょうふだぞう職員・第三者委員

- サービス実施者（運営者）、事業所の責任ある運営に関してすばらしい成果をあげられています。
- 個別状況に応じ、きめ細かく対応している。
- 小さな完成を求めず、大きな未完成の中にある「今」と、「今できる仕事」を大事にしている事は希望の家のセンスです。こまかいことはわかりませんが、水底を静かに流れているという本流を感じることがあります。

昨年度調査 社協事務局・市障害福祉課・ちょうふだぞう職員・第三者委員の主な意見

- 利用者の健康面での把握と通院援助等、日常生活に関する気配り

昨年度調査 希望の家職員の主な意見

- 日常業務に関する一定の水準を全職員が確保すること。水準を高める問題意識の低さ。
- 個別・生活支援を充実させるために必要なアセスメント、ニーズ把握の未熟さ。
- 所内整理
- 事務をする時間の確保が難しい。
- アセスメントが数年間更新されていない。
- 事業所間での情報共有が遅い
- サービス利用終了の記録作成
- マニュアルの活用及び更新。
- 外部の職員スキルアップ研修が極めて少ない
- 職員の就業状況、疲労、ストレスなどの必要性を感じる
- 障害特性に合わせた援助技術の向上
- ボランティアの受け入れ
- 利用者の休憩場所を増やす
- 職員のスキルアップ
- 6-4-2 利用者の日中活動メニューのバリエーションがもっと必要
- 6-4-3 暖かく、飽きの来ない食事の提供については検討が必要。
- 整理整頓が不十分。
- ミーティングの報告の記録が不十分。
- 新たな活動の創出
- 文書管理の徹底

社協事務局・市障害福祉課・ちょうふだぞう職員・第三者委員

- ホームページの更新がされておらず、古い情報が最新情報として掲載されている

昨年度調査 社協事務局・市障害福祉課・ちょうふだぞう職員・第三者委員の主な意見

- 保護者への情報伝達の工夫
- 個人情報保護の方法の統一・改善

<ul style="list-style-type: none">●チームワークの良さ●利用者の主体性を尊重している点。●地域や関係機関との連携を図っている点●きめ細かな生活支援を行っている点●サービスの実施にあたり、地域と連携して取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none">●援助の効果測定・評価法の創造
---	---